

令和7年 火災と救急救助の概要

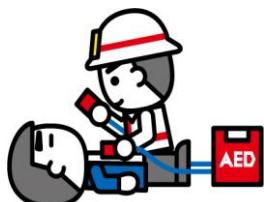
消防本部予防課予防G (☎ 0595-82-9492)

消防本部消防総務課消防救急G (☎ 0595-82-9496)

火災 35 件

救急 2,723 件

救助 36 件



●火災の概要 【消防本部予防課予防グループ】

令和7年中の火災件数は35件で、前年と比較すると14件増加しています。中でも、車やバイクが燃える『車両火災』は11件で前年比7件増加、空地や田畠の枯草などが燃える『その他火災』は16件で前年比6件増加しています。

車両火災は、高速道路など長時間の連続走行中に発生する割合が多くなっています。長距離走行の前にはオイルのにじみや漏れ、バッテリーのターミナルの緩み、タイヤの溝や空気圧などを点検しましょう。

また、令和7年中の負傷者のうち1名は、調理中の『着衣着火』が原因です。袖口の広がった服で調理しない、こんろの奥に調味料を置かない、防炎製品を使用するなど着衣着火の防止に努めましょう。

項目	令和6年	令和7年	前年比
火災件数	建物火災	7	8
	林野火災	0	0
	車両火災	4	11
	その他火災	10	16
	合計	21	35
死傷者	死者(人)	1	-1
	負傷者(人)	2	±0

※その他火災とは、建物、林野、車両に該当しない火災です。

●救急救助の概要 【消防本部消防総務課消防救急グループ】

■救急

・事故種別出動件数、搬送人員（表1）

令和7年中の出動件数は2,723件、搬送人員は2,480人で、前年と比べて出動件数は56件、搬送人員は26人増加しました。

1日の平均出動件数は7.5件で、平均搬送人員は6.8人となっています。

事故種別では、急病によるものが最も多く、次いで一般負傷、交通事故の順となっています。

（表1）

年別 事故種別		令和6年	令和7年	前年比
火災	出動件数	10	13	+3
	搬送人員	2	2	±0
自然災害	出動件数	0	0	±0
	搬送人員	0	0	±0
水難	出動件数	2	3	+1
	搬送人員	2	1	-1
交通事故	出動件数	206	206	±0
	搬送人員	206	198	-8
労働災害	出動件数	39	43	+4
	搬送人員	38	43	+5
運動競技	出動件数	8	11	+3
	搬送人員	7	10	+3
一般負傷	出動件数	405	445	+40
	搬送人員	364	402	+38
加害	出動件数	4	3	-1
	搬送人員	1	2	+1
自損行為	出動件数	16	20	+4
	搬送人員	12	15	+3
急病	出動件数	1,851	1,878	+27
	搬送人員	1,699	1,706	+7
その他	出動件数	126	101	-25
	搬送人員	123	101	-22
合計	出動件数	2,667	2,723	+56
	搬送人員	2,454	2,480	+26

・被搬送者の傷病程度別比率（表2）

令和7年中の被搬送者2,480人における傷病程度の比率は、軽症が1,305人で52.5%、中等症が910人で36.7%、重症が213人で8.6%、死亡・その他が52人で2.1%となっています。

（表2）

年別 傷病程度		令和6年	令和7年
軽 症	搬送人員	1,279	1,305
	比 率	52.1%	52.5%
中等症	搬送人員	953	910
	比 率	38.8%	36.7%
重 症	搬送人員	170	213
	比 率	6.9%	8.6%
死亡・その他	搬送人員	52	52
	比 率	2.1%	2.1%
合 計	搬送人員	2,454	2,480

※ 軽 症：入院を必要としないもの

中等症：入院を必要とするもので、重症に至らないもの

重 症：三週間以上の入院加療を必要とするもの

死 亡：初診時において死亡が確認されたもの

その他：医師の診断がないものなど

・被搬送者の年齢区分別比率（表3）

令和7年中の被搬送者における年齢区分別比率は、高齢者が1,532人で61.8%、成人が704人で28.4%、少年が123人で5.0%、乳幼児が121人で4.9%となっています。

（表3）

年別 年齢区分		令和6年	令和7年
高齢者 65歳以上の者	搬送人員	1,501	1,532
	比 率	61.2%	61.8%
成 人 18歳以上65歳未満の者	搬送人員	730	704
	比 率	29.7%	28.4%
少 年 7歳以上18歳未満の者	搬送人員	95	123
	比 率	3.9%	5.0%
乳幼児 生後28日以上7歳未満の者	搬送人員	126	121
	比 率	5.1%	4.9%
新生児 生後28日未満の者	搬送人員	2	0
	比 率	0.1%	0.0%
合 計	搬送人員	2,382	2,480

・医療機関への市別搬送比率（表4）

令和7年中の市別医療機関における搬送比率は、市内医療機関への収容率が38.4%で、市外医療機関への搬送が61.6%となっています。

（表4）

年別 市別		令和6年	令和7年
亀山市	搬送人員	920	952
	比率	37.5%	38.4%
鈴鹿市	搬送人員	1,256	1,207
	比率	51.1%	48.7%
津市	搬送人員	164	166
	比率	6.7%	6.7%
四日市市	搬送人員	106	143
	比率	4.3%	5.8%
その他	搬送人員	8	12
	比率	0.3%	0.5%
合計	搬送人員	2,454	2,480

・現場到着・病院収容までの平均所要時間（表5）

令和7年中の現場到着までの平均所要時間は、8.7分で前年と比べて0.3分短縮しました。
病院収容までの平均所要時間は、40.6分で前年と比べて0.8分短縮しました。

（表5）

年別 所要時間		令和6年	令和7年	前年比
現場到着（分）		9.0	8.7	-0.3
病院収容（分）		41.4	40.6	-0.8

■救急車の適正利用と救急医療情報システムの利用

救急車の適正利用については、広報「かめやま」や救急講習会などを通じて、市民の理解と協力をお願いしていますが、依然として明らかに軽症と思われる方、タクシー代わりの出動要請など緊急性の低い事例がみられます。

救急車を呼ぶほどではないが、すぐに受診を希望される場合は、下記の「救急医療情報システム」を利用してください。

《救急医療情報システム》

パソコン URL <http://www.qq.pref.mie.lg.jp/>

携帯電話 URL <http://www.qq.pref.mie.lg.jp/k/>

自動案内 ☎0800-100-1199（通話料無料・ファックスでも受信可能）

医療情報センター（対人案内） ☎059-229-1199

※受診の際は、必ず紹介された医療機関に事前確認してください。

※救急車を呼ぶべき症状について詳しくは、市消防本部のホームページをご覧ください。

（URL <http://www.city.kameyama.mie.jp/shobo/index.html>）

■救 助

令和7年中の救助件数は36件で、前年に比べて4件減少しました。交通事故に伴う救助出動が最多となっています。

また、全国的に登山中の遭難事故等が多発する中、管内においても登山中の滑落事故や道迷いが相次いで発生しました。

災害はいつ起こるか分かりません。日頃から災害に対して備えましょう。

救助の概要		令和6年	令和7年	前年比
事故種別件数	交通事故	19	18	-1
	水難事故	2	3	+1
	建物等による事故	10	7	-3
	風水害等 自然災害事故	0	0	±0
	機械による事故	0	1	+1
	その他の事故	9	7	-2
	合計	40	36	-4

※その他の事故とは、交通事故、水難事故などに該当しない事故です。

■災害情報案内の利用

火災などの災害情報を自動音声案内や市消防本部ホームページ（軽易なものは除く）に掲載していますので、ご活用ください。

《自動音声案内》

☎0595-82-9555

《市消防本部ホームページ》

URL <http://www.city.kameyama.mie.jp/shobo/>